

課題名 ウォルト・ディズニーが考えた都市の模型製作

指導教員 中西 章先生

研究の目的

最近の商業施設は駅前の大型百貨店の減少やショッピングモールなどのアミューズメント感覚の商業施設が増加している。過去にこのようなアミューズメントパークを応用して商業都市を設計した人物がいた。ディズニーランドで世界に知られているウォルト・ディズニーがディズニーランドを商業施設と考え、その考え方を応用して都市を設計していた。ウォルト・ディズニーはその理想としている都市をEPCOTと名付けた。その都市がどのような機能、景観だったのかを模型から示すことを試みた。また、建築には素人のウォルト・ディズニーが考えた都市がどのようなものなのかを明らかにすることを目的とした。

研究の方法

ウォルト・ディズニーが考えた都市に関する資料はほとんど大まかなものしかなかった。模型製作は、インターネットで集めた地図（図1）やEPCOTの部分的な透視図をもとに行った（写真1）。また、『都市と消費とディズニーの夢』などのウォルト・ディズニーについて書かれている文献を読んで彼の思想、考えをまとめ、模型製作の参考とし、合わせてどのような景観、都市機能にしたかったのかまとめた。

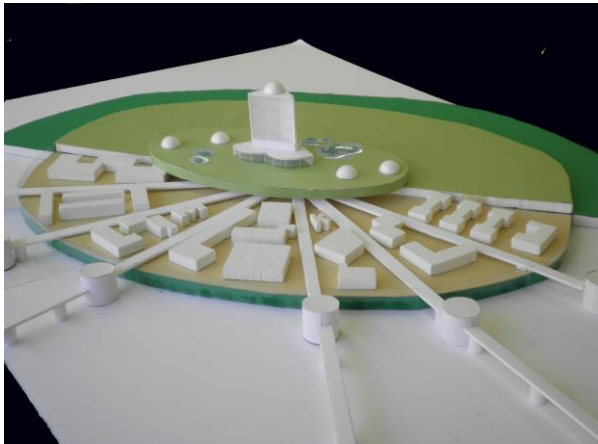


写真1 模型完成図（斜め上から）

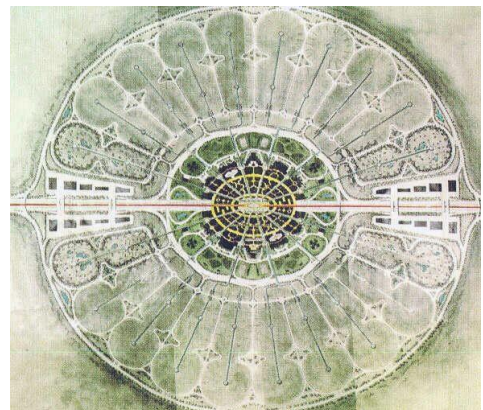


図1 都市の地図

模型の概要

縮尺： 1 / 2 5 0 0

材料： スチレンボード（土台、モノレール）、発泡スチロール（建物）、画用紙（表面の緑）

模型対象： 都市の中心部のみ（ダウンタウンを除く）

考察

模型の製作によって、2つの項目から都市の機能、景観を考察した。

(1) 交通

商業地区と居住地区が分離させて、人の流れの制限を行っている。商業地域と居住地区はモノレールで結んでいる。都市を4つの地域に分けて、中心から商業、ビジネス、高密度のアパート、広い緑地のエリア、そしてダウンタウンに分けている（図2）。道路、モノレールを都市の中心に集め、中心はホテルや商業施設が入っているこの都市の核となっている（写真2）。観光などでこの都市を訪れた人々はこのホテルから行くことができる。訪問者を中心部に集中させるにより人の行き来を制限し、セキュリティを向上させ、犯罪ゼロの都市としても目指していたとされる。

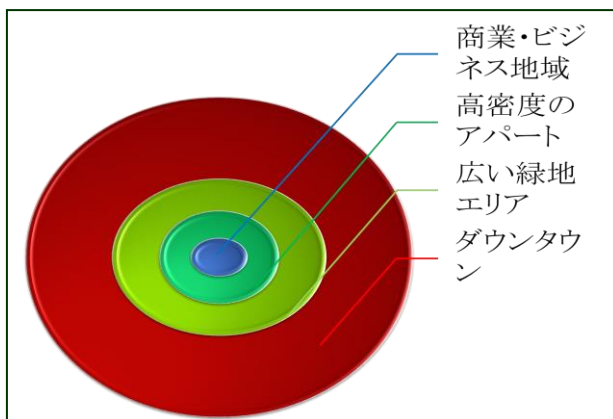


図2 EPCOT の概念図

写真2 中心部への交通

(2) 景観

都市を上空から見ると、緑しか見えない。町の多くの建物は地下に建てられている。ウォルト・ディズニーは都市を周りの環境と景観を合わせるために、建物は外部からは見えなくしたと考えられる。模型では、半分が建物が建つ都市の地下を表し、反対側は外部から見た姿を表している（写真2）。

まとめ

ウォルト・ディズニーが考えていた都市は、都市を同心円状に考えおり中心へ向う動線を重視した都市としている。また、その景観は人工的なもの（車など）を極力地下におさめ、緑を重視していることが、模型からもわかる。

参考文献

http://d.hatena.ne.jp/baby_theory/20120814/p1

<http://db.10plus1.jp/backnumber/article/articleid/960/>

<https://sites.google.com/site/theoriginalepcot/>

速水健朗『都市と消費とディズニーの夢』（角川新書）角川書店、2012年